

# いまの計画では市営住宅を大幅削減することになりかねない

市営住宅長寿命化計画 2023-2032

全体の22.8%

## 10年間で市営住宅を1397戸減らす計画

減らす内訳は、  
政策空き家 692戸  
使える住宅 705戸



今年から市営住宅の新しい計画（長寿命化計画）が10年計画で始まりました。

市民要望に応えて市営住宅を増やすべきなのに、10年間で1400戸近い住宅を廃止します。極端に老朽化し取り壊

しが決まって新規入居の募集をしない住宅。政策空き家で700戸弱、今も使える住宅も700戸以上減らします。

いまの市営住宅は修繕費が足らず、22%が空き家。これを修理して住んでもらおうというのではなく、住んでいないならその分は不要という考えです。

具体的には、数棟建っている団地の中で、古い棟に住んでいる人を別の棟に移し、全員が立ち退いたら廃止します。多くの方が転居を迫られ、新規の入居募集は減ることになります。

どうなる!?

（仮称）まちなか団地

市が唯一の新設の団地として考えているのが「まちなか団地」です。場所や戸数などは全く決まっていませんが、まちなかで子育て世帯などを対象に、場合によっては津波避難機能も備えてと、いろいろ検討しているようです。

●これまでは、50年経った住宅は建て直し、そこに全員引っ越してもらってきました。これをやめて、H3年以降の住宅を修理しつつ70年使い続け、引っ越し先も修繕した既存の住宅に。新規建設は極力減らしていくという事です。でも、団地内すべての棟がH2年以前のものであるという団地も多く、原則どおりには進みません。

●何よりも、現状の市営住宅に住んでいる戸数そのものが、市民ニーズと比べ少ないという認識に立つべきです。



村上かずしげ通信 2023.6.18

発行 共産党市議団 23-5212

